

2024年3月31日

イースター礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒164番（旧222番）（KH姉）

『墓の中にいと低く』

聖書⇒使徒言行録2章24~28、31~32節（MM姉）

『しかし、神はこのイエスを死の苦しみから解放して、復活させられました。イエスが死に支配されたままでおられるなどということは、ありえなかったからです。ダビデは、イエスについてこう言っています。

『わたしは、いつも目の前に主を見ていた。

主がわたしの右におられるので、／わたしは決して動揺しない。

だから、わたしの心は楽しみ、／舌は喜びたたえる。

体も希望のうちに生きるであろう。

あなたは、わたしの魂を陰府に捨てておかず、／あなたの聖なる者を／朽ち果てるままにしておかない。

あなたは、命に至る道をわたしに示し、／御前にいるわたしを喜びで満たしてください。』

そして、キリストの復活について前もって知り、／『彼は陰府に捨てておかれず、／その体は朽ち果てること
がない』／と語りました。神はこのイエスを復活させられたのです。わたしたちは皆、そのことの証人です。』

礼拝讃美歌⇒467番（旧223番）

『救いの主はハレルヤ』

聖書⇒ヨハネによる福音書20章19、27~29節（ES姉）

『その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。

それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに

信じる人は、幸いである。』

（祈）

礼拝讃美歌⇒147番（旧149番）（KH兄）

『カルバリの丘の辺に』

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11章 23~26節（KH兄）

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。』

（式）

礼拝讃美歌⇒148番（旧94番曲）

『主の御旨により』

《建徳》

聖書⇒ヨハネによる福音書 11章 23~27、33-35節（KH兄）

『イエスが、「あなたの兄弟は復活する」と言われると、マルタは、「終わりの日の復活の時に復活することは存じております」と言った。イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」マルタは言った。「はい、主よ、あなたが世に来られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております。」

イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのを見て、心に憤りを覚え、興奮して、言われた。「どこに葬ったのか。」彼らは、「主よ、来て、御覧ください」と言った。イエスは涙を流された。』

聖書⇒ルカによる福音書 23章 44~46、50~53節

『既に昼の十二時ごろであった。全地は暗くなり、それが三時まで続いた。太陽は光を失っていた。神殿の垂

れ幕が真ん中から裂けた。イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。

さて、ヨセフという議員がいたが、善良な正しい人で、同僚の決議や行動には同意しなかった。ユダヤ人の町アリマタヤの出身で、神の国を待ち望んでいたのである。この人がピラトのところに行き、イエスの遺体を渡してくれるようにと願い出て、遺体を十字架から降ろして亜麻布で包み、まだだれも葬られたことのない、岩に掘った墓の中に納めた。』

聖書⇒ルカによる福音書 24 章 1~11 節

『そして、週の初めの日の明け方早く、準備しておいた香料を持って墓に行った。見ると、石が墓のわきに転がしてあり、中に入っても、主イエスの遺体が見当たらなかった。そのため途方に暮れていると、輝く衣を着た二人の人がそばに現れた。婦人たちが恐れて地に顔を伏せると、二人は言った。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出しなさい。人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている、と言われたではないか。」そこで、婦人たちはイエスの言葉を思い出した。そして、墓から帰って、十一人とほかの人皆に一部始終を知らせた。それは、マグダラのマリア、ヨハナ、ヤコブの母マリア、そして一緒にいた他の婦人たちであった。婦人たちはこれらのことを使徒たちに話したが、使徒たちは、この話がたわ言のように思われたので、婦人たちを信じなかった。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 20 章 11 節 (TM 兄)

『マリアは墓の外に立って泣いていた。』

礼拝讃美歌⇒165 番 (旧 52 番)

『主は墓より』

《建徳要旨》